

準師範試験実施要項

▽第七十五次漢字部課題

○漢字部 次の作品二点〔何れも半切35cm×135cmに揮毫〕を提出する

・規定《書体 行草書》

敲枕醉眠成戲蝶 抱琴閒望送歸鴻 (劉禹錫) <2022年12月号>

註|| 枕を敲(たた)いて酔(よ)うて眠(ねむ)って戯(あそ)ぶ蝶(ちょう)を成(な)し 琴(きん)を抱(いだ)き間(かん)に望(のぞ)んで帰(かえ)る鴻(こう)を送(おく)る。●戯蝶(あそぶちょう) || 戯(あそ)ぶ蝶(ちょう) ●帰鴻(かえこう) || 春(はる)、北(きた)へ帰(かえ)る雁(かり)

・臨書 「牛轍造像記」 六字

永絶因趣一切

註|| 永(とこ)く因(いん)趣(しゆ)を絶(た)ち、一(いっ)切(けつ)の

▽第七十五次かな部課題

○かな部 次の作品二点〔半切35cm×135cmに揮毫〕を提出する。

・規定《書体自由》

夕(ゆふ)されば門(かど)田(た)の稻(いな)葉(は)おとづれて芦(あし)のまろ屋(や)に秋(あき)風(かぜ)ぞ吹(ふ)く (源 経信)

<2022年2月号>

註|| 夕(ゆふ)方(かた)にならんと門(かど)に在(あ)る田(た)の稻(いな)をそよがせて、芦(あし)葦(あし)の家(か)に、秋(あき)風(かぜ)が吹(ふ)いてくる。

・臨書 高野切第三種 (伝 紀貫之)

なげきをばこりのみつめてあしひきのやまのかひなくなりぬべらなり

▽第四十五次詩文書部課題

次の作品二点〔何れも半切35cm×135cmに揮毫〕を提出する ※形式は縦作品に限る

・規定《原文を尊重すること》

烏(からす)飛(と)んで夕(ゆふ)日に動(うご)く冬(ふゆ)木(き)かな (夏目漱石)

註|| 飛(と)び立(た)った烏(からす)に、夕(ゆふ)日(ひ)を受(う)けた冬(ふゆ)木(き)の枝(えだ)は、細(こ)かくいつまでも揺(ゆ)れている。森(もり)閑(かん)とした冬(ふゆ)野(の)の夕(ゆふ)方(かた)の景(けい)。

・臨書 孫過庭・書譜 六字

體老壯之異時

註|| 老(ろう)壯(そう)の時(とき)を異(こと)にするを體(たい)すれば、

― 受験についての注意 ―

- 1、受験資格 漢字・かな・詩文書とも六段。但し『日本書道院展出品経験者』で、満十八才以上であること(二〇〇六年四月一日生まれまで認める)。
- 1、受験料 八千円(漢字・かな・詩文書の別) 受験料は事務局から請求書到着後、郵便振替で本院に送付のこと。
- 1、本院主催の日本書道院展に一回以上出品の者(部門不問)。第七三回展出品も可。
- 1、切 四月十九日 発表六月号
- 1、作品には申請書に貼付の出品票を使用して六段になった年月(日本書道誌発表の月)を必ず記入して添付すること。又、作品の左下隅にも同じく鉛筆で段位・支部名・氏名を記入のこと。
- 1、不合格者(規定違反も同じ)はその氏名を發表しない。
- 1、受験作品は白画仙紙を用い、準師範受験申請書を作品と共に提出のこと。また、封書には必ず「準師範応募」と朱書のこと。
- 1、準師範受験申請書は、返信料八十四円切手を添えて本部へ請求のこと。
- 1、提出した作品は一切返却しない。
- ◎月刊「日本書道」四月号に添付の『出品一覧表』に記入の上出品のこと。
- ◎出品作品には雅印押印のこと。
- ◎師範受験時には日本書道院展出品が二回以上必要となる。受験の際は注意すること。

▽第十七次硬筆部課題

・規定 <2022年11月号応用部課題>

君臨すれども統治せず。国と民を愛し、愛された。人々は彼女から多くを学んだ。

・臨書 蘭亭序(王羲之) 十六字

每攬昔人興感之由 若合一契 未嘗不臨

註|| 昔(せき)人(じん)感(かん)を興(おこ)すの由(よし)を攬(か)る毎(ごと)に、一(いつ)契(けい)を合(あ)するが若(ごと)し。未(いま)だ嘗(かつ)て文(ぶん)に臨(りん)んで同じであれば、その文を前にして

1、受験資格 六段

1、受験料 五千円

準師範受験申請書は、返信料八十四円切手を添えて本部へ請求のこと。

1、切 四月十九日 発表六月号

1、作品には申請書に貼付の出品票を使用して六段になった年月(日本書道誌発表の月)を必ず記入して添付すること。また、封書には必ず「準師範応募」と朱書のこと。

◎月刊「日本書道」四月号に添付の『出品一覧表』に記入の上出品のこと。

昇段・級試験実施要項

▽第一三四次漢字部・かな部課題

○第一部 「半切35cm×135cm」 次の漢字又は、かな（各書体自由）を半切の場合、縦に揮毫したものと一点。

・漢字部

夕陽遠樹煙生成 秋雨殘荷水繞城（高啓） 〈2022年9月号〉

読 夕陽の遠樹煙成に生じ 秋雨の殘荷水城を繞る

註 夕日が遠くの木々をつつむ中で煙が陣屋から立ち上り、秋雨が散り残りのはずの葉に降り注ぎ、水かさを増した堀は城をめぐっている。

・かな部

高砂の尾上の桜咲きにけり外山の霞立たずもあらなむ（大江匡房）

〈2022年4月号〉

註 遙かかなたに、山の峰の桜が咲いたことだ。端山の霞よ、たたずいてほしい。

一、受験資格 漢字・かなとも二級以上のもの

一、受験料 一点につき 四千元。

一、成績により六段以下の相当級に編入する。

漢字・かな受験者の事情により昇段試験の課題（漢字・かな）を半切12（35cm×68cm）に二点（書体《書風》を変えるか縦・横にする）揮毫しても受験することができる。ただし、現在二級・一級・初段・二段の人は一点でもよい。

○第二部「半紙」次の漢字（楷書）又はかな（書体自由）を半紙に揮毫したものと一点

・漢字部

乾坤純和（文帝） 〈2022年1月号〉

読 乾坤純和

註 天地がやわらかくこと。

・かな部

さびしさに宿を立ち出でて眺むればいづこもおなじ秋の夕暮（良暹）

註 さびしいので、庵から外へ出て、あたりをながめると、庵のうちだけではなく、見渡すかぎり、どこもおなじさびしさである。この秋の夕暮れは。

一、受験資格

漢字・かなとも二級以下のもの「漢字作品には支部名・級・氏名（号）を競書と同じく筆によって揮毫する。かなの場合は名（号）又は雅印を捺した上に、作品左下隅に鉛筆で級と支部名、姓号を記入する。」

一、受験料 一点につき、千五百円。

一、成績により一級以下の相当級に編入する。

▽第四十五次詩文書部課題

○第一部 「半切」 次の俳句（原文を尊重すること）半切35cm×135cmに揮毫したものと一点
※形式は半切の場合には縦作品に限る

・ありく間に忘れし春の寒さかな（栗田禰堂）

註 「ありく」は歩く。歩いている間に心身がぼかばかしてきて春の寒さも忘れてしまう、の意。

一、受験資格 二級以上のもの。

一、受験料 一点につき、四千元。

一、成績により六段以下の相当級に編入する。

詩文書受験者の事情により昇段試験の課題を半切12（35cm×68cm）に二点（書体《書風》を変えるか縦・横にする）揮毫しても受験することができる。ただし、現在二級・一級・初段・二段の人は一点でもよい。

○第二部 「半紙」 次の俳句（原文を尊重すること）を揮毫したものと一点

※形式は縦作品に限る

・猫逃げて梅動けり臘月（池西言水） 〈2022年2月号〉

註 月もおぼろの春の宵、恋猫が逃げて梅の枝が揺すれほかに梅の花の香りが漂う、の意。

一、受験資格 二級以下のもの

一、受験料 一点につき、千五百円。

一、成績により一級以下の相当級に編入する。

― 出品についての注意 ―

一、×切 四月十九日 発表六月号

一、作品には四月号発表の競書成績の段級と支部名又は府県名、氏名又は号を書いた小票（たて11センチ×よこ4センチ・競書用出品券使用可）を作品の左下に貼付する。又作品左下隅にも同じく鉛筆で段級・支部名・氏名を記入のこと。「級の無いものは新とす（new）」

一、一級以上のものは第一部「半切」へ出品のこと。

一、各部で昇級できなかったものは氏名を発表しない。（規定違反も同じ）

一、昇級試験の作品は競書作品と別にし、必ず封書に「昇試」と朱書する。

一、受験料は事務局から請求書到着後、郵便振替で本院に送付のこと。

一、提出した作品は一切返却しない。

◎月刊「日本書道」四月号に添付の『出品一覧表』に記入の上出品のこと。

◎出品作品には雅印押印の習慣をつけること。

▼第十九次硬筆部・昇段・級試験実施要項

○応用部 次の課題を「硬筆用紙」に書いたもの一点。

・雑草魂草のたくましさに憧れる。逆境をも利用して自らの力に変えてしまう。

〈2022年7月号〉

一、受験資格 二級以上のもの

一、受験料 一点につき、三千円。

一、成績により六段以下の相当級に編入する。

○基礎部 次の課題を「硬筆用紙」に書いたもの一点。

・くしゃみの飛沫発生量はせきの十倍以上とか言われる気配りせねば。

〈2022年3月号〉

一、受験資格 二級以下のもの 作品には支部名・級・氏名(号)を競書と同時

じく硬筆用紙に書く。

一、受験料 一点につき、千五百円。

一、成績により一級以下の相当級に編入する。

― 出品についての注意 ―

一、〆切 四月十九日 発表六月号

一、作品には四月号発表の競書成績の段級と支部名又は府県名、氏名又は号を書いた小票(たて11センチ×よこ4センチ・競書用出品券使用可)を作品の左下に貼付する。又作品左下隅にも同じく鉛筆で段級・支部名・氏名を記入する。硬筆部は『硬筆用紙』に記入する「級の無いものは新とすること」。

一、各段で昇級できなかった者は氏名を発表しない(規定違反も同じ)。

一、昇級試験の作品は競書作品と別にし、必ず封書に「昇試」と朱書のこと。

一、受験料は事務局から請求書到着後、郵便振替で本院に送付のこと

一、提出した作品は一切返却しない。

◎月刊「日本書道」四月号に添付の『出品一覧表』に記入の上出品のこと。

第九次毛筆細字部「玄位」認定試験要項

【課題】二〇二三年四月から二〇二三年一月までに日本書道の毛筆細字部課題として発表された中から二点と、「自由課題(選文自由、三〇〇〜四〇〇文字程度)」一点の合計三点とする。

(自由課題の例) 格言、小説の一節等を自分で選んで提出する。自作の詩も可とする。

― 受験についての注意 ―

一 受験資格

二〇一八年一月以降の競書毛筆細字部で六回以上の出品の者。
二〇二四年四月一日時点で二〇歳以上の者。

二 受験料

八千円
※受験料は事務局から請求書到着後、郵便振替で送金する。

三 受験用紙

作品提出用紙は日本書道院指定の用紙を使用する。
(競書提出用紙と同じ)。

四 受験申請

受験申請書は返信封料八四円切手を添えて本部に請求する。または日本書道院ホームページ「情報配信コーナー」の「申請書ダウンロード」から印刷すること。

五 添付書類

受験者は「玄位」の受験申請書を作品と共に提出する。試験結果のお知らせ用の返信用封筒(宛名、住所を明記し、切手貼付したもの)を作品と同封する。なお作品は返却しない。
※毛筆細字部のみ受験は出品一覧表は必要なし。

二〇二四年四月一九日(金)まで必着。

七 合格発表

二〇二四年六月号 (不合格者は発表しない。)

八 認定料

認定料として五万円を納入し、合格者には認定証を交付する。認定証の番号は申請書の番号とする。納入しない場合は認定しない。

九 認定交付

合格発表時に詳細を通知する。

十 会員資格

玄位認定者で日本書道院の会員になっていないものは、この認定で会員資格を得ることができる。